

韓国語の否定表現「照 [an]¹⁾ v.s. - 走 省 [-ji an]」

— その用法と教育的実践 —

A priority of ‘-ji an’ over ‘an’ in teaching Korean negative expressions

李 潤 玉

This paper is intended to propose that the seemingly difficult negative expression ‘- 走 省 [-ji an]’ be taught to beginners of the Korean language before the seemingly easy negative word ‘ 照 [an]’. It is because the former, which may require you to spend a little more time teaching but has no restrictions in usage, while the latter, which will require you to spend by far less time teaching but has various restrictions in usage which beginners will be perplexed when they are faced with them.

韓国語の肯定文を否定文化する際に「- 走 省 [-ji an]」か「照 [an]」かの、いずれかを使う。前者は動詞、形容詞といった、いわゆる用言の語幹と活用語尾の間に割り込む形式をとるのに対し、後者は英語の not のようにそのまま肯定文の中に入れるだけで否定文を作ることができる。このため、後者の方が一見、教えやすく学びやすいように思われるが、この否定語の使用には様々な使用制限があるために却って使いにくいことが、学習レベルが上がるにつれて明らかになってくる。このような苦勞をするぐらいなら、せめて初期学習段階のうちに前者に重点を置いた教え方をした方が良いのではないかということ、事例を用いながら、提案する。

0. はじめに

本稿の主目的は次の二点 (a)、(b)

- (a) 否定表現「照 [an]」²⁾と「- 走 省 [-ji an]」³⁾の用法の違い
- (b) 両否定表現の初期学習者への教え方

に絞られる。

1. 「照 [an]」と「- 走 省 [-ji an]」

1. 1. 「照 [an]」と「- 走 省 [-ji an]」の実例と初期学習者の反応

両否定表現⁴⁾は普通、次のように使われる：

- (1) { 展稽澗 益 持識聖 股澗陷 .
 { Taro-neun gu saengseon-eul meongneunda
 { (太郎はその魚を食べる)
- (2) { a. { 展稽澗 益 持識聖 照 股澗陷 .
 { Taro-neun gu saengseon-eul an meongneunda
 { (太郎はその魚を食べない)
 { b. { 展稽澗 益 持識聖 股走 省澗陷 .
 { Taro-neun gu saengseon-eul meokji anneunda
 { (太郎はその魚を食べない)

これら二つの否定表現への初期学習者の反応は、10人のうち10人が前者、つまり「照 [an]」の方が使いやすい、ということであった。その理由は、彼らがそれまでに学習してきた外国語の英語の否定用語に並行する、ということであった⁵⁾。この理由を (3) として下にあげる：

(3) 初期学習者は「照 [an]」と英語の「not」を並行させる傾向がある。

確かに、(2a) は英語の文 (4) に並行する：

- (4) { Taro does *not eat* the fish.
 { (太郎はその魚を食べない)

「並行する」とは、「does」という助動詞の出現を除けば、肯定文に否定語の not を挿入するだけで否定文を作ることが出来るということである。しかしながら、筆者のような韓国語母国語話者にとって不思議なことは、(4) では「does」が新しく現れるということでは後者の否定表現にも「-走 [-ji]」という新要素が現れていることと同様の現象であるにもかかわらず、「does」は気にならないのに対して「-走 [-ji]」は気になる、ということである（ただし、この場合、発音が同音の「照 [an]」と「省 [an]」を同じ語と見なしている）。もし、この原因が「英語を長く学習してきた」という点にあるならば、それは単に「慣れ」に帰する問題であるから、対象が初期学習者であっても、後々のことを考えれば「-走 省 [-ji an]」をしっかりと教えこむことが必要かもしれない。何故なら、後述するように、「照 [an]」には使用制限がいくつも存在する一方、「-走 省 [-ji an]」には全く使用制限がないからである。従って、筆者としては次の (5) の提案をしたい。

(5) 初期学習者に対して

- a. 韓国語には「照 [an]」と「- 走 省 [-ji an]」の2つの否定表現が存在するといった類の、どちらでも良い式の教え方は控えた方が良い。さもないと、後々「照 [an]」の使用制限を教えねばならなくなった時には、すでに学習者は「照 [an]」に慣れ切っており、「- 走 省 [-ji an]」に対する理解が遅れている。
- b. 「- 走 省 [-ji an]」には使用制限はないこと、他方「照 [an]」には使用制限が多いことを実例を示すことによって、両者の違いを明確に教えておく（実際、否定文に「- 走 省 [-ji an]」の頻度が「照 [an]」のそれより遥かに多い本の実例があることは後述する⁶⁾）。

1. 1. 1. 「照 [an]」の使用制限

以下の用言は「照 [an]」とは、叙述文、疑問文を問わず、共起しない。

- (6) a. 焼硯岩陥 [areumdapda] (=美しい)
- b. 照床郡陥 [ansseureopda] (=いたわしい)
- c. 云爽鍵陥 [gumjurinda] (=飢える)
- d. 照陥 [anda] / 乞献陥 [moreunda] (=知る・知っている・分かる / 知らない・分からない)
- e. 赤陥 [itta] / 蒸陥 [eoptta] (=いる・ある / ない・いない)
- f. (杖閨戚) 持奄陥 [(eolguli) saengida] (= (顔が) ハンサム、醜いことを表す時の表現)
- g. 胃巨陥 [gyeondida] (=我慢する)

以下に、各々の実例文をあげる：

- (7) a. (肯定文) 戚 寡精 焼硯岩陥. (=この花は美しい)

i kkocheun areumdapda

- (否定文) { (叙述文) * 戚 寡精 照 焼硯岩陥.
 (疑問文) * 戚 寡精 照 焼硯岩柔艦猿?

- b. (肯定文) 戚 焼威垂 照床郡陥. (=この子供がいたわしい)

i aiga ansseureopda

- (否定文) { (叙述文) * 戚 焼威垂 照 照床郡陥.
 (疑問文) * 戚 焼威垂 照 照床郡柔艦猿?

- c. (肯定文) 益 紫寓精 云爽鍵陷. (=あの人は飢える)
 gu saram-eun gumjurinda
 (否定文) { (叙述文) * 益 紫寓精 照 云爽鍵陷.
 (疑問文) * 益 紫寓精 照 云爽驗艦猿?
- d. (肯定文) 益潤 益 紫叔聖 照陷/乞献陷. (=彼はその事実を知っている/知らない)
 guneun gu sasileul anda moreunda
 (否定文) { (叙述文) * 益潤 益 紫叔聖 照 照陷/乞献陷.
 (疑問文) * 益潤 益 紫叔聖 照 笑艦猿/乞絹艦猿?
- e. (肯定文) 増拭 儀威 赤陷/蒸陷. (=家にお金がある/ない)
 jibe doni itta eoptta
 (否定文) { (叙述文) * 増拭 儀威 照 赤陷/蒸陷.
 (疑問文) * 増拭 儀威 照 赤柔艦猿/蒸柔艦猿?
- f. (肯定文) 益潤 杖閏威 設 持医陷. (=彼はハンサムだ)
 guneun eolguli jal saenggyeotta
 (否定文) { (叙述文) * 益潤 杖閏威 照 持医陷.
 (疑問文) * 益潤 杖閏威 照 持医柔艦猿?
- g. (肯定文) 希是研 胃抛陷. (=暑さを我慢する)
 deowireul gyeondinda
 (否定文) { (叙述文) * 希是研 照 胃抛陷.
 (疑問文) * 希是研 照 胃許艦猿?

1. 1. 2. 何故 1. 1. 1. での共起関係が非文を生むか?

1. 1. 1. における「照 [an]」と各々における用言との共起が非文を生むのかには次に述べるような原因が存在する。

- (8) 焼硯岩陷 [areumdapda] (=美しい)、照床郡陷 [ansseureopda] (=いたわしい)、云爽軒陷 [gumjurida] (=飢える) : 母音「焼 [a]」から始まる用言や長音節用言には「照 [an]」との共起には制限が生ずる。前者は同音連続の回避、後者は「照 [an]」の否定の磁場が極めてせまいことがその理由。同様の指摘については (辞舛呪 : 1996、沿疑縦 : 1980 等)。
- (9) 硝陷 [alda] / 乞牽陷 [moreuda] (=知る・分かる / 知らない・分からない)
 赤陷 [itta] / 蒸陷 [eoptta] (=いる・ある / ない・いない) : 肯定語に対して否定語が存在する用言には「照 [an]」との共起が不可能である。

- (10) (杖閏戚) 持奄陷 [(eolguli) saengida] (= (顔が) ハンサム、醜いことを表す時の表現)

胃巨陷 [gyeondida] (=我慢する): 慣用的な表現として「公 持医陷 (= (顔が) ハンサムではない、醜い)」、「公 胃巨畏陷 (=我慢することができない)」のように、否定形としては不可能の意を表す副詞「公 [mot]」と共に起する。

2. 1. 「漢字語 + 馬陷 [hada]」動詞

2. 1. 1. 「漢字語 + 馬陷 [hada]」の内部構造

漢字語と固有語「馬陷 [hada]」との結合によって多くの複合動詞が生み出された。これらの二つの構成要素の結びつきの強さは極めて弱いといわねばならない⁷⁾。このことは、例えば、以下 (11) ~ (15)

- (11) 益潤 伸宿備 因採廢陷 . (= 彼はよく勉強する)
gu-neun yeolsimi gongbuhanda
- (12) 亜膳戚 敗臆 縦紫廢陷 . (= 家族が一緒に食事する)
gajog-i hamkke sigsahanda
- (13) 採乞還臆 穿鉢廢陷 . (= 両親に電話する)
bumonim-kke jeonwahanda
- (14) 醇弘淫聖 胃俳廢陷 . (= 博物館を見学する)
bagmulgwan-eul gyeonhaghanda
- (15) 鍾疑舌拭辞 鍾疑廢陷 . (= グラウンドで運動する)
undongjang-eseo undonghanda

の各々において、漢字語で表される名詞の統語上の機能が他動詞「馬陷 [hada]」の対格目的語であることを示す助詞「研 [reul]」⁸⁾を挿入した (11') ~ (15') と上出 (11) ~ (15) とは各々知的意味は⁹⁾同じであることから裏付けられる。

- (11') 益潤 伸宿備 因採研 廢陷 . (= 彼はよく勉強をする)
gu-neun yeolsimi gongbu-reul handa
- (12') 亜膳戚 敗臆 縦紫研 廢陷 . (= 家族が一緒に食事をする)
gajog-i hamkke sigsa-reul handa
- (13') 採乞還臆 穿鉢研 廢陷 . (= 両親に電話をする)
bumonim-kke jeonwa-reul handa

- (14') 醇弘淫聖 胃俳聖 廢陷 . (= 博物館を見学をする)
 bagmulgwan-eul gyeonhag-eul handa
- (15') 鍾疑舌拭辞 鍾疑聖 廢陷 . (= グラウンドで運動をする)
 undongjang-eseo undong-eul handa

2. 1. 2. 「照 [an]」の否定の磁場

「照 [an]」と「漢字語 + 「馬陷 [hada]」動詞が共起すると非構造的になることは、上出 (11) ~ (15) に「照 [an]」を挿入した次の (16) ~ (20) が非文になることから明らかであるが、同時に知的意味は (11) ~ (15) と等価と見なされる上出 (11') ~ (15') に「照 [an]」を挿入した (16') ~ (20') も非文になる。(16) ~ (20) における「照 [an]」が一見、直後の「漢字語 + 馬陷 [hada]」全体を否定しているように思えたものが、(16') ~ (20') では直後の漢字語名詞のみを否定できても、「対格助詞「研 [reul] (= を)」を飛び越してまで「馬陷 [hada]」を否定する力がないことが浮き彫りになる :

- (16) *益潤 伸宿備 照 因採廢陷 . (= 彼はあまり勉強しない)
 gu-neun yeolsimi an gongbuhanda
- (17) *亜膳戚 敗臆 照 縦紫廢陷 . (= 家族が一緒に食事しない)
 gajog-i hamkke an sigsahanda
- (18) *採乞還臆 照 穿鉢廢陷 . (= 両親に電話しない)
 bumonim-kke an jeonwahanda
- (19) *醇弘淫聖 照 胃俳廢陷 . (= 博物館を見学しない)
 bagmulgwan-eul an gyeonhaghanda
- (20) *鍾疑舌拭辞 照 鍾疑廢陷 . (= グラウンドで運動しない)
 undongjang-eseo an undonghanda
- (16') *益潤 伸宿備 照 因採研 廢陷 . (= 彼はあまり勉強をしない)
 gu-neun yeolsimi an gongbu-reul handa
- (17') *亜膳戚 敗臆 照 縦紫研 廢陷 . (= 家族が一緒に食事をしない)
 gajog-i hamkke an sigsa-reul handa
- (18') *採乞還臆 照 穿鉢研 廢陷 . (= 両親に電話をしない)
 bumonim-kke an jeonwa-reul handa
- (19') *醇弘淫税 照 胃俳聖 廢陷 . (= 博物館の見学をしない)
 bagmulgwan-ui an gyeonhag-eul handa

(20') *鍾疑舌拭辞 照 鍾疑聖 廢陷 . (=グラウンドで運動をしない)

undongjang-eseo an undong-eul handa

2. 2. 「- 走 省 [-ji an]」が必要な理由

結局のところ、「漢字語 + 馬陷 [hada]」動詞の否定は「馬陷 [hada]」のみを否定することと知的意味は同じである。従って次の (21) ~ (25)、(26) ~ (30) の両形否定文が考えられる。

(21) 益潤 伸宿備 因採 照 廢陷 . (=彼はあまり勉強しない)

gu-neun yeolsimi gongbu an handa

(22) 亜膳戚 敗臆 縦紫 照 廢陷 . (=家族が一緒に食事しない)

gajog-i hamkke sigsa an handa

(23) 採乞還臆 穿鉢 照 廢陷 . (=両親に電話しない)

bumonim-kke jeonwa an handa

(24) 醇弘淫聖 胃俳 照 廢陷 . (=博物館を見学しない)

bagmulgwan-eul gyeonhag an handa

(25) 鍾疑舌拭辞 鍾疑 照 廢陷 . (=グラウンドで運動しない)

undongjang-eseo undong an handa

(21') 益潤 伸宿備 因採研 照 廢陷 . (=彼はあまり勉強をしない)

gu-neun yeolsimi gongbu-reul an handa

(22') 亜膳戚 敗臆 縦紫研 照 廢陷 . (=家族が一緒に食事をしない)

gajog-i hamkke sigsa-reul an handa

(23') 採乞還臆 穿鉢研 照 廢陷 . (=両親に電話をしない)

bumonim-kke jeonwa-reul an handa

(24') 醇弘淫税 胃俳聖 照 廢陷 . (=博物館の見学をしない)

bagmulgwan-ui gyeonhag-eul an handa

(25') 鍾疑舌拭辞 鍾疑聖 照 廢陷 . (=グラウンドで運動をしない)

undongjang-eseo undong-eul an handa

これらの場合と同様に、例えば次の (26a、b) のように

(26) a. 蟹潤 増聖 鯰繕拜 持唾戚陷 (=私は家を改造するつもりだ)

na-neun jib-eul gaejohal saenggagida

- b. ?? 蟹澗 増聖 鯨研 拜 持唾威陷 (= ?? 私は家を改造をするつもりだ)
na-neun jib-eul gaejo-reul hal saenggagida

「漢字語馬陷 [hada]」動詞を分解し、「研 [reul] (=を)」を使うと、極めて不自然な文になることは、同様の例をもう一つ (27a, b) としてあげるだけで十分だろう。

- (27) a. 蟹澗 増聖 重逐拜 持唾威陷 (= 私は家を新築するつもりだ)
na-neun jib-eul sinchukal saenggagida
b. ?? 蟹澗 増聖 重逐聖 拜 持唾威陷 (= ?? 私は家を新築をするつもりだ)
na-neun jib-eul sinchuk-eul hal saenggagida

ここから「研 [reul] (=を)」が連続する「…研 [reul] …研 [reul]」と異なり、「研 [reul] (=を)」を一回だけ使う分解現象は韓国語にも日本語にもこの種の表現が大変多い。特に口語体の日常表現として使われることが多い (例、散歩しに行く ↔ 散歩をしに行く)。この「漢字語馬陷 [hada]」を分解することなく「漢字語馬陷 [hada]」動詞として「馬陷 [hada]」のみを否定するために「馬陷 [hada]」の内部に否定表現を語幹と活用語尾の間に割り込ませる必要性が生じたと考えられる。

2. 2. 1. 語の内部否定

例えば「(因採) 馬走 省澗陷 [(gongbu) ha-ji anneunda] (=勉強しない)」のような内部否定は日本語や英語にないだけでアルタイ語 (Altaic) に共通して観察される現象である¹⁰⁾。アルタイ語の一つであるトルコ語からの一例を (28) として示す。

- (28) a. O geldi.¹¹⁾ (=彼/彼女は来た)
(he / she came)
b. O gelmedi. (=彼/彼女は来なかった)
(he / she come-not-3rd person past)

(28b) の gelmedi の否定辞「me」が語幹「gel-」と活用語尾の間に割り込む現象は、「馬陷 [hada]」の語幹「馬 [ha]」と活用語尾「陷 [da]」の間に割り込む現象は全く同じである。日本語や英語に見られないだけでアルタイ語と同じ現象と考えれば、何ら不思議な否定形式法ではない。「馬陷 [hada]」の内部否定の説明の際、このような他言語の類似性を示し、何ら奇異なものでないことを認識させれば、「馬走 省陷 [haji anta] (=しない)」の理解の一助になるかもしれないし、時には他言語を紹介することは授業に変化をもたせる効果を期待できる。

2. 2. 2. 「- 走 [-ji]」と「省 [an]」の説明

- i : 「照 [an]」と「省 [an]」は同音なので、綴り字の違いに注意させること
- ii : 「- 走 [-ji]」と「省 [an]」は必ず「- 走 省 [-ji an]」として一塊で記憶させること
- iii : 「- 走 [-ji]」は必ず語幹の直後に生じ、「省 [an]」は活用語尾の直前に生ずること¹²⁾、
逆に言えば、「- 走 [-ji]」は左側に語幹が存在することを示す合図、「省 [an]」は「評」の右側に活用語尾が存在することを示す合図、と教える方法もある。

3. まとめ

韓国語の否定表現には「照 [an]」と「- 走 省 [-ji an]」の二種類が存在するが、特に初期学習者には安易にどちらでも良い式の教え方をしない必要がある。その理由は、難しそうな後者より、易しそうな前者だけを覚える可能性があるからである。従って、初期学習者の今後を考えるなら、むしろ後者の表現に慣れさせることに重点を置き、前者には軽く触れる程度が良い。

そして、日常会話では「照 [an]」否定形の方が多用される事実は、学習者がかなりの段階、あるいは会話の段階に達した時点で詳細に教えれば良い。二種類の否定表現が韓国語に存在することをきっちり教えるには、このような方法も考えられることを提案したい。

注

- 1) 本論文の韓国語の表記には2000年7月7日の庚鉢淫韻採 壹獸（文化観光部告示）による国語のローマ字表記法を用いる。なお、韓国語が読めない学習者、研究者にでも発音ができるようにするために [] を用いてローマ字表記している。この理由は、ソウルオリンピック（1988年）をひかえた1984年韓国の文教部が「韓国語の発音を原音に近く発音できるような表記法」を決定したが、これが後に表記法の混乱を招くことになったからである（国語文化研究所（2000：3-4））。このような事柄を踏まえて、本論では発音優先の表記法を英語の発音記号かっこを用いて示している。
- 2) 「照 [an]」は「焼艦 [ani]」の縮約形であるが、用言の否定表現では実際に使われるのは「照 [an]」であるため、本稿では「照 [an]」を用いることにする。
- 3) 「- 走 省 [-ji an]」も「照 [an]」と同様、「- 走 焼艦馬 [-ji aniha]」が縮約されて使われるのが一般的であるため、本稿では「- 走 省 [-ji an]」を用いることにする。
- 4) 韓国の国語研究書では否定表現「照 [an]」を、否定要素が比較的短いことから短形否定 (short form)、用言の前で使われる否定方式であるため先行否定 (pre-verbal negation)、「- 走 省 [-ji an]」は否定要素が「照 [an]」より長いことから長形否定 (long form)、また用言の後ろの方で使われるため後行否定 (post-verbal negation) という用語が用いられている。
- 5) この調査は関西大学、近畿大学、大阪外国語大学、吹田国際交流協会韓国語講座での初期学習者を対象に前三校は2003年春学期に、後者は2000年～2003年に行った。
- 6) 例えば、因井費訳『乞軒人 敗臆廢 鉢推析』、原作名：An old man, a young man, and life's greatest lesson では「- 走 省 [-ji an]」と「照 [an]」の出現は「210回：10回」である。この翻訳は勿論韓国語母国語話者によって行ったものであるから、原文の英語に影響されて自身の直観力に反する表現は用いないと見なしてよい。ただし、両表現の頻度は個人の文体の傾向、出身地、教育程度等、言語地理学の点からの広い観察が必要である。

- 7) 固有の「馬陥[hada]」動詞でさえ、例えば「析馬陥[il-hada] (= 働く)」、「察掘馬陥[ppalrae-hada] (= 洗濯する)」等の否定形には「-走省[-ji an]」しか用いられないことから、「漢字語馬陥[hada]」動詞と「-走省[-ji an]」の共起は当然のことと言える。なお、「求/吐/変/加/期」など、一語の漢字語と「馬陥[hada]」の統合語はこの限りではない。その理由はこれらの漢字語は「馬陥[hada]」と分離した独立語として機能しないからである。
- 8) 日本語の対格助詞「を」に相当する韓国語助詞は「研[reul]」と「聖[eul]」がある。これらは音韻論的な異変形態であって同意である。前者は母音で終わる体言、後者は子音で終わる体言に後続する。例文以外の場合は便宜上「研[reul]」を代表形として用いる。
- 9) Leech (1974) 等の言う‘conceptual meaning’ のことで、観念的意味、概念的意味とも言う。
- 10) このような理由から韓国語をアルタイ語族に含める説もある。例えば、大塚 (1982: 186)、国語学会 (1993: 21 ff.)、亀井 (1988: 528 ff.)。
- 11) gelmek 否定形
gel- 来る/行く
-di 三人称単数過去
- 12) まず、動詞の現在形を使って慣れさせることを目的とするため、このように記述する。その後、過去形や意志未来現象などでは応用段階と考える。これらの段階をマスターした学習者、つまり、もはや初期学習者ではない人には「日常会話では「照[an]」否定形の方が多用される」ことを教える必要がある。

参考文献

- 飯沼英三 (1996) 『新トルコ語辞典』ベスト社.. 東京.
- 亀井孝他 (編) (1988) 『言語学大辞典』第1巻.三省堂. 東京.
- 勝田 茂 (1986) 『トルコ語文法読本』大学書林.. 東京.
- Kim, D, S. (沿疑縦) (1980) 「薄企 厥嬢 採舛狛税 尻姥 (現代国語否定法の研究)」厥嬢 尻姥 42, 厥嬢 尻姥嘶. ソウル.
- 金 貞淑 (編) (1996) 『例解新韓日辞典』民衆書林. ソウル.
- 国語学会 (編) (1993) 『国語学大辞典』東京堂出版. 東京.
- 国語文化研究所 (厥嬢庚鉢尻姥社) (2000) 『稽原切 舛奄 遂景増 (ローマ字表記用例集)』左衽紫. ソウル.
- Kong, K, H.. (因井費) (trans.) (1998) 『乞軒人 敗臆廢 鉢推析』室曾辞旋. ソウル.
- 李 崇寧他 (監修) (1974) 『標準韓国語Ⅱ』高麗書林. 東京.
- Lee, I.S. & Im, H.B. (戚斥七, 績昌朔) (1998) 『国語文法論』学研社, ソウル.
- Leech, G., N. (1974) *Semantics*, Penguin Books Ltd., London.
- Nam, K, S. (害奄宿) (1997) 『舛層 厥嬢 庚狛経 (標準国語文法論)』転室毒紫. ソウル.
- 太田 朗 (1980) 『否定の意味』大修館書店. 東京.
- 大塚高信他 (編) (1982) 『新英語学辞典』研究社. 東京.
- Seoul 大学大学院国語研究会 (辞随企企併据 厥嬢尻姥嘶) (1990) 『国語研究 嬢巨 猿走 尽蟹 (国語研究どこまで来たのか)』粘至疑焼. ソウル.
- Shin, C, S. (重但授) (1982) 「厥嬢 採舛狛税 尻姥 (国語否定法の研究)」情嬢7.1., ソウル.
- Shin, W. J. (重据仙) (1987) 「薄企 厥嬢 採舛 舛薄拭 淫廢 尻姥 (現代国語の否定表現に関する研究)」厥嬢厥庚併 轄庚増27, 辞随企 紫企 厥嬢引. ソウル.
- Suh, C, S. (辞舛呪) (1996) 『薄企 厥嬢 庚狛経 (現代国語文法論)』廢丞企併嘘 室毒据. ソウル.
- 東亜出版社 編輯局 (編) (1990) *Prime Korean-English Dictionary*, 東亜出版社編輯局. ソウル
- Um, J, H. (豊舛裕) (1987) 「舌莫 採舛庚拭 蟹展蟹濁 ‘-走’ 拭 企馬食 (長形否定文に現れる ‘-ji に

韓国語の否定表現 “照 [an] v.s. - 走 省 [-ji an]” (李)

対して)」 廐嬢伴16., ソウル .

Yasuda, Y. & Son, N. (安田吉美・孫洛範) (1998) 『日韓辞典』 民衆書林 . ソウル .